

東京八王子ビートルズ B.LEAGUE ONE 参入へ

東京八王子ビートルズのプロリーグ参入10周年の年である2024・25シーズンの戦いは、20勝32敗13位という成績で終わりました。プレーオフ出場という目標は果たせませんでした。2026・27シーズンに上位カテゴリに参入するための条件をクリアしました。応援していただいた皆様に心より感謝申し上げます。今回は、東京八王子ビートルズのプロリーグ参入となるための5年間を振り返ります。



八 王子にあるプロバスケットボール

チームが倒産の危機にある、助けられないかというオファーが入ったのが2020年1月。このままではチームは消滅すること。話を聞くと、債務超過が2億8千万円あるという。しかもここ2年間で2億円の借金が増え、最長で給料が3カ月も止まっている選手や社員もいた。心の中では3年後だったら……とも思っていました。

ですが、自分の好きなタイミングでチャンスが来るほど世の中は甘いものではありません。「子どもたちに夢と未来を」「バスケットで八王子を盛り上げる」という理念を見ながら「子どもたちの夢を消したくないな」「八王子市民のためにも頑張ってみよう」という気持ちと共にうっすらと勝利の兆しが見えてきました。その少しの可能性にかけてやってみようと思ひ、決断しました。しかし、八王子の地は新しいオーナー企業を警戒している空気です。157社あったスポンサー企業は125社に。追い打ちをかけるようにコロナ禍が始まり、緊急事態宣言。八王子市長や職員とも会えません。

売上、経営状況の説明、八王子市との連携などいくつものプレッシャーに加え、コロナへの不安もあり、眠れない日々が続きました。一緒に走り回った高松、田杭の両氏やスタッフもプレッシャーの中でよく闘ってくれました。コスト削減の施策を一つひとつ積み重ねていき、初年度は180万円の黒字を出すことができました。

コ

コロナ禍では観客を入れられない試合もあり、入場料収入が激減。グッズも売れず、ファンクラブにも呼び込めません。それだったらと、八王子市のためにやることをやろうと決めました。小学校でのバスケット教室は、2m級の選手が大人気でした。ゴミ拾い、イチヨウの落ち葉掃き、花火大会の後片付けなど地域活動を頑張る中で、年々「ビートルズが変わってきた」「いい選手が増えてきて八王子に貢献している」という噂が広がり、コロナ禍が明けていくにつれ、八王子の方がどんどん観戦に来てくださるようになりました。当初は平均約500人の観客でしたが、2年

前は平均約1000人、前シーズンは平均1700人の方が来てくださったのです。2400人も観客が入ったときは、感動して込み上げてくるものがありました。メガホンを手に大声で応援をして、お酒や食事を楽しみ、子どもたちが走り回るアリーナ。選手と観客が一体となって作られる素晴らしい2時間のスポーツエンターテインメントが、そこにありました。

そして5年間の黒字の積み重ねやスポンサー様の協力もあって、2025年3月31日、2億8000万円の債務超過を解消しB.LEAGUE ONE参入の諸条件をクリアしました。

5年前に消滅しかかっていたビートルズ。今では八王子市内の多くのお店にポスターが貼られ、ビートルズの話で盛り上がる方も増え、少しずつ八王子自慢のチームになってきたように思います。2026年9月からは上のカテゴリで戦える条件が揃いました。今年は9月よりB3リーグ最後の年が始まります。プレーオフ出場を目指して一戦一戦、挑戦していきます。

※4年間で5,000万円を返済していたため、2024-25シーズンは2.3億円を返済

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。フーテン王国王立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。